



「フィリピンの路上で暮らす若者の自立支援プロジェクト」の修了式の様子（2021年3月）

ごあいさつ

アジア・コミュニティ・センター 21 をご支援いただいているすべての皆さまに、厚く御礼申し上げます。

ACC21 を 2005 年に立ち上げる、それより 25 年近く前の話ですが、以前の職場の関係でフィリピン・マニラ市を支援活動の調査で訪問する機会がありました。仕事を終えてマニラ湾のほとりを夜 9 時ごろ散歩していた時、ストリートチルドレンと呼ばれる子どもたちとの初めての出会いがありました。8 歳から 12 歳ぐらいの子ども 5 人ほどに取り囲まれました。そしてお金が欲しいというので、小銭を渡しました。そうしたら、子どもたちがもっと欲しいと、私のポケットに手を突っ込み始めました。びっくりし腕をつかんで振りほどこうとしたら、その腕の細さに驚きました。そして私を射るような子どもたちの視線に一瞬戦慄が走りました。近くを通りかかった地元の男性が子どもたちを追いやってくれましたが、そのとき、日本の子どもたちは自宅で勉強しているかテレビを観ている時間なのに、なぜ、この国の子どもたちは路上で生活し夜遅く物乞いをしなくてはならないのか。当時からの疑問でした。

そして、ACC21 では 3 年前からフィリピンのストリートチルドレン、中でも年長の若者たちが自立し社会参加できるように研修支援活動を行っています。表紙の写真は、その修了式の光景です。

ACC21 ではさらに、2030 年に向けて SDGs の基本理念である「誰一人取り残さない」を実行すべく、ストリートチルドレン“ゼロ”をめざす日比 NGO 間の協力を進めてまいります。

代表理事 伊藤 道雄

アジア・コミュニティ・センター 21 (ACC21) は
アジア 12 か国の 100 以上の現地 NGO とのネットワークを基盤に
アジアの平和で公正な社会づくりをめざして活動しています



《目次》

- 1. 数字でみる 2020p. 2
- 2. 活動の現場から、ひとびとの声をお届けします…p. 3
- 3. 写真で振り返る 15 年間のあゆみp. 4
- 4. 2020 年度の活動報告p. 6
- 5. 2020 年度の会計報告p.17
- 6. 事務局からp.18

- ①フィリピン・ストリートチルドレン支援 ▶ p. 6
- ②フィリピン・緊急支援 ▶ p. 8
- ③スリランカ女性支援 ▶ p. 9
- ④日韓みらい若者支援 ▶ p.10
- ⑤企業との連携による途上国支援 ▶ p.12
- ⑥ ACT 推進／公益信託の事務局活動 ▶ p.13
- ⑦日比 NGO 協働推進 ▶ p.14
- ⑦広報啓発など ▶ p.15

1. 数字でみる2020

約 **47,000** 人

2020 年度の ACC21 の活動で受益したアジアの人々の数です。

のべ 約 **100** 人

オンラインのイベントや学習会等を通じて国際協力や ACC21 の活動について知っていただいた人数です。

1,091.3
万円

3 つの公益信託の事務局として橋渡しをした、アジア 8 か国（日本含む）の NGO 等への助成総額です。

（詳しくは p.13 参照）

2. 活動の現場から、ひとびとの声をお届けします



フィリピン



フィリピンの自立支援
プロジェクト修了生・
ロウエナさん

“ 私は父からの暴力をきっかけに、3歳から母と路上で暮らし始めました。17歳で最初の子を妊娠し、22歳になるまでに4人の子どもを産みました。夫はアルコールに依存し、暴力をふるうようになったため、今は離れて暮らしています。家族の生活を良くしたいと思い、「路上で暮らす若者の自立支援プロジェクト」に参加しました。職業技術はもちろん、他の人たちとの付き合い方や貯金の方法など様々なことを学びました。コロナ禍で仕事を探すのは大変ですが、家族のために良い仕事を見つけ、私が経験した苦勞を子どもたちが経験しないで済むようにしたいです。”

このプロジェクトの報告ページ 6～7ページ



インドネシア



モリンガの葉を加工する
地元の人々（上）とパッ
ッケージ化された商品（左）

西カリマンタン州の住民の手で大切に育てられ、加工されたモリンガとハチミツは、ジョグジャカルタ特別州にあるパートナー団体（YDD）の本部でパッケージ化され、ハーブティー4種とモリンガの詰め合わせセット「Sweetest Wellness Package」が完成しました。インドネシアのショッピングサイトや自然食品店などでの販売が始まり、コロナ禍で健康志向が高くなった人たちに向け、SNSなどを通じて積極的にPRを行っています。

このプロジェクトの報告ページ 12ページ



日本



日韓みらい若者支援事業の学習会に参加した
玄基正さん

「日韓学生フォーラム」37期実行委員長

“ 日韓みらい若者支援事業の学習会に参加して、さまざまな団体が日韓の若者による交流や勉強会などを行っていることを知りました。私たちのグループがもっている問題意識や目標と重なる部分があり、とても有意義な学習会でした。

コロナ禍でさまざまな活動が制限されている中で、このような会に参加したことで、自分たちにはない考え方やアイデアを知ることができました。”

このプロジェクトの報告ページ 10～11ページ

3. 写真で振り返る 15 年間のあゆみ

〔2005年〕

「アジアの人々が共に生き、支え合う、世界に開かれた、公正で平和な社会」をビジョンにかかげ、2005 年 3 月に任意団体として活動をスタート。



設立記念パーティー（2005 年 5 月）

〔2006年〕

「日比 NGO ネットワーク」(JPN) 発足。フィリピン・マニラにて「日比 NGO シンポジウム」を共同開催。マイクロファイナンス普及 3 か年事業をスタート。



第 1 回日比 NGO シンポジウム（2006 年 11 月、マニラ）

〔2007年〕

カンボジアの貧しい子どもの就学前教育や母親の収入向上を支援する事業を開始（～2011 年）。フィリピンではミンダナオ平和構築支援事業を実施。



学用品を配布された子どもたち（2007 年 9 月、カンボジア）

〔2008年〕

「第 2 回日比 NGO シンポジウム」共催。公益信託アジア・コミュニティ・トラストの事務局経験を活かし「助成担当オフィサー研修」を実施（2007～11 年）。



第 2 回日比 NGO シンポジウム（2008 年 7 月、東京）

〔2009年〕

2009 年 10 月に「特定非営利活動法人」格を取得。人材育成事業「アジア NGO リーダー塾」（のちに「アジア社会起業家育成塾」に改称）を開始。



アジア NGO リーダー塾 1 期生による公开发表会（2010 年 3 月）

〔2010年〕

公益信託アジア・コミュニティ・トラスト (ACT) の 30 周年記念シンポジウムを開催。フィリピン・ダバオでは「第 3 回日比 NGO シンポジウム」を共同開催。



ACT30 周年記念シンポジウム（2010 年 11 月）

〔2011年〕

3 月 11 日の東日本大震災の被災地に、アジアの留学生をボランティアとして派遣する「東北ボランティア」事業を開始（～2012 年）。



被災地でのボランティア活動のようす（2011 年 8 月）

〔2012年〕

2011 年に引き続き、アジアの留学生を東北の被災地にボランティアとして派遣。2 年間でアジア 15 か国・地域からの留学生等計 224 人が参加。



漁業の復興支援に取り組む留学生たち（2012 年 8 月、宮城県石巻市）

[2013年]

ACT のさらなる発展を展望し、未来への戦略づくりを行うことを目的に、アジアの現地 NGO リーダーや日本の有識者を招いて「ACT 戦略会議」を開催。



戦略会議のほかシンポジウムも開催（2013年8月）

[2014年]

2013年11月にフィリピンで発生した台風30号の被災地復興支援を目的に、JPN 主催（事務局：ACC21）で「日比フレンドシップ・ラン&ウォーク」を開催。



108人が参加した日比フレンドシップ・ラン&ウォーク（2014年9月）

[2015年]

2015年4月に発生したネパール大地震では、被災地の95世帯に安全な水を届け、子どもの安全な居場所（CFR）10か所を設置。



トラウマ防止や補習のためのチャイルド・フレンドリー・ルーム（CFR）

[2016年]

2016年3月に「認定NPO法人」（認定特定非営利活動法人）に認定。権利を奪われた子ども・女性のための自主事業を開始する方針を決定。



認定NPO法人取得記念フォーラム（2016年10月）

[2017年]

ジェンダー問題への取り組みとして、スリランカで農村女性の法的支援と地場産業育成による生計向上支援を開始（2019年度末までの3年間で女性780人を支援）。



女性組織の共同ビジネスが地域経済を活性化

[2018年]

路上で暮らすフィリピンの若者の自立支援を開始。アジア社会起業家育成塾が最終年を迎え、10年間で67人輩出。インドネシアでは企業・NGO連携事業を開始。



路上の若者が自立のための技術や知識を学ぶための研修を実施

[2019年]

日韓政府の対立が続くなか、市民の手で日韓関係の創造性ある未来をめざそうと、「日韓みらい若者支援事業」をスタート。



第1回学習会「在日が目ざす日韓共生社会」（2019年11月）

[2020年]

新型コロナウイルス感染拡大とそれに伴う都市封鎖で困窮するフィリピンの路上の子どもとその家族のための緊急支援を実施。その他の活動は次頁以降で紹介。



現地パートナー職員（左）から救援物資を受け取る子ども（右）

活動報告① 権利を奪われたストリートチルドレン支援



コロナ禍でいつも以上に困窮する若者たちが
知識や技術を身につけて自立できるよう支援

2020 年度は新型コロナウイルスの影響を受けて一時活動が中断となりながらも、「路上で暮らす若者の自立支援プロジェクト」を通じて、29 人の若者たちを支援しました。また、都市の貧しい若者たちが小規模なオンライン・ビジネスを起業・発展させていくための調査事業を行いました。

「路上で暮らす自立支援プロジェクト」の生計技術トレーニングで軽食調理を学ぶ研修生たち（2020 年 7 月）

活動の 実績

- ・ 路上で暮らす若者 29 人に自立のための職業技術や知識を学ぶ機会を提供しました
- ・ のべ 11 人の若者に、少額の起業資金を提供し、小規模ビジネスの開始・運営を支援しました

ストリートチルドレンを社会の有為な一員に

フィリピン・マニラ首都圏では数万人の子どもたちが路上で暮らしています。そして、次のような様々な要因が複雑に絡み合い、その数は増えているとされています。

・ 教育を受けておらず、仕事につくためのスキルがない

・ 路上で育った若者が 10 ～ 20 代で子どもをもち、その子どももまた、路上で暮らすようになる

・ 地方の貧しい農民が、仕事を求めて都市に入ってくる

事業①「路上で暮らす若者の自立支援プロジェクト」

期間：2020 年 9 月～2021 年 8 月（3 年計画の 3 年目）
※以降 2030 年まで継続予定

対象地：フィリピン・マニラ首都圏
（マニラ、マラテ、エルミタの 3 地区を中心）

受益者：路上で暮らす 16 ～ 24 歳の若者

パートナー団体：チャイルドホープ・フィリピン財団

路上で暮らす若者 29 人に自立のための機会を提供

そこで ACC21 は、現地で豊富な経験をもつチャイルドホープとともに、その悪循環を断ち切り、路上で暮らす若者たちが路上を抜け出して自立できるように「路上で暮らす若者の自立支援プロジェクト」に取り組んでいます。

2020 年度は、計 29 人（2020 年 1 ～ 8 月：11 人、2020 年 9 月～2021 年 2 月：18 人）の若者を対象に、職業技術やライフスキル（日常生活の様々な問題に前向きに対処する力）を学ぶための機会を提供しました。

事業②「都市に暮らす貧しい若者の小規模起業家育成プログラムの開発」

期間：2020 年 1 月～2021 年 7 月（コロナの影響で延長）

対象地：フィリピン・マニラ首都圏と周辺地域

受益者：都市に暮らす貧しい若者約 1,600 人

パートナー団体：カサガナカ協同組合（K-Coop）、
カサガナカ開発センター（KDCl）

コロナ禍の厳しい外出・移動制限で

路上の若者たちの生活に打撃

フィリピン・マニラ首都圏では、新型コロナウイルスの感染拡大によって2020年3月中旬以降、厳しい外出・移動制限が課されました。このため、現地での活動は5月末まで一時中断となりました。

6月以降、最も厳しい外出・移動制限は緩和されたものの、年間を通じて外出・移動制限や事業所の勤務人数の制限などが続きました。長引く経済の落ち込みで雇用状況は悪化し、2020年の失業率は10.3%と現在の方法で統計が取られるようになった2005年以降、最悪となりました。

私たちが支援する若者たちも、せっかく得た職を失うなど、これまで以上に困窮しています。

小規模ビジネスの起業を念頭に置いた支援を拡充

就職が困難な状況を踏まえ、「路上で暮らす若者の自立支援プロジェクト」では、これまでの研修に加え、若者たちが自ら起業して収入を得られるように、生活用品や加工食品を製造・販売するための技術を学ぶ生計技術トレーニングを充実させたほか、起業資金の支援を拡大しました。

さらに、職業技術研修では従来の飲食サービス・コースとバリスタ・コース（コーヒーを淹れる専門技術）に加え、コロナ禍で宅配サービスの需要が増えていることから、自転車の修理組立コースを新たに開講しました。

《自立支援プロジェクトの全体像》

①自立のための心構え・お金の使い方

- ▶ ライフスキル・トレーニング
- ▶ 金銭管理教育
- ▶ 道徳教育

②仕事のスキル

- ▶ 職業技術研修
- ▶ 生計技術トレーニング

③仕事を始めるためのサポート

- ▶ 健診、証明書の取得
- ▶ 就活・起業指導
- ▶ 起業資金の支援

④ひとりひとりの悩みや課題への対処

- ▶ 社会心理学的
カウンセリング

(コロナ禍の影響をうけて、昨年から「生計技術トレーニング」「起業資金の支援」を強化)

2020年度中は、のべ11人の若者に、1万ペソ(約2万円)以内の少額の起業資金を提供し、ビジネスを開始・運営を支援しました。

両事業の実施にあたり、2020年度は、「立正佼成会一食平和基金」と「連合・愛のカンパ」からの助成金と、個人・団体の皆さまからのご寄付をいただきました(両助成金は、「路上で暮らす若者の自立支援プロジェクト」に活用いたしました)。御礼を申し上げます。

若者の起業における課題や必要な能力とは？

若者たちの起業をバックアップするために、都市貧困層を対象にマイクロファイナンスを提供する協同組合K-Coopとその姉妹団体KDCIとともに、「都市に暮らす貧しい若者の小規模起業家育成プログラムの開発」事業にも取り組みました。本事業は当初、2020年1月から1年間、K-Coopの若者組合員を対象に、若者の起業における課題や必要な能力を調査する計画でしたが、コロナの影響を受けて計画を変更し、期間を2021年7月末まで延長し、下記の活動に取り組みました。

- ・オンライン販売に特化した情報提供やニーズ調査
- ・配送サービス提供者についての調査
- ・若手組合員7人へのオンライン販売活動支援

これらの活動で得られた知見や経験は、2021年度以降の「路上で暮らす若者の自立支援プロジェクト」に活かしていきます。



2021年3月に開催した修了式の様子。コロナの影響で2020年中に修了式を実施できなかったため、2期合同で開催した

自立支援プロジェクトの現地担当者・メルチョーさんからのメッセージ

このプロジェクトは、路上の若者たちに希望を与え、自尊心を高めるための開かれたドアです。様々なトレーニングを通じて、仕事のスキルや人間性を高めることができ、若者たちは皆とても感謝しています。ご支援ありがとうございます。



活動報告② コロナ禍で困窮するフィリピンの路上の子ども・家族への緊急支援



コロナ禍で困窮するフィリピンの路上の家族 1,472 世帯に、
4,371 袋の食料物資などを配布

フィリピンでは 2020 年 3 月中旬から新型コロナウイルス感染拡大抑制のために厳しい外出・移動制限が課せられました。現地からの要請を受け、2020 年 4 月から 9 月まで募金と呼びかけ、現地での救援活動に役立てました。

現地パートナー団体・チャイルドホープの職員（左）から物資を受け取る少年（右）

活動の 実績

- ・ コロナ禍で困窮する路上の家族 1,472 世帯への食料物資 4,371 袋等の配布に協力しました
- ・ 日本での寄付の呼びかけに対し、のべ 118 人・団体から 181 万 8,090 円の寄付をいただきました

新型コロナウイルスの感染拡大に伴う都市封鎖で 困窮する路上の子どもたちに、日本から温かい支援

フィリピンの首都マニラでは、2020 年 1 月下旬以降に新型コロナウイルスの感染が広がり、3 月中旬から 5 月末まで厳しい外出・移動制限措置（都市封鎖）が課せられました。この間、路上で暮らす人々は、物乞いや路上での販売活動が禁止され、収入源が絶たれました。また、レストランや建設現場などで働いていた人々も、勤務先の営業停止などによって仕事を失いました。

そこで ACC21 は、2020 年 4 月 3 日より、新型コロナウイルスの感染拡大やそれに伴う都市封鎖で困窮する路上の子ども・若者とその家族のために、緊急支援の呼びかけを始めました。

おかげさまで、2020 年 9 月 30 日までにのべ 118 人・団体から 181 万 8,090 円のご寄付をいただき、うち 9 割にあたる 163 万 6,281 円を現地に送り、パートナー団体・チャ

イルドホープを通じて路上の人々に救援物資を届けました。

チャイルドホープは 2020 年 3 月 22 日に救援活動を開始し、11 月 30 日までに路上の子ども・若者とその家族 1,472 世帯に対し、次の救援物資を届け、日本の皆さまからのご寄付は、これらの救援物資の購入と配布にあてられました。

- | | |
|-----------------|------------------|
| ・ 食料物資 4,371 袋 | ・ 栄養補助食品 1,172 袋 |
| ・ 衛生キット 1,416 袋 | ・ 学用品 294 袋 |
| ・ 調理済食品 2,031 袋 | |

※チャイルドホープは 2020 年 11 月末までに総額約 1,114 万円（518 万ペソ）をこの緊急支援活動のために国内外で調達。このうち 14% が、ACC21 が日本で集めた資金です。

日本でもコロナ禍で健康や生活に様々な影響を受ける中、多くの方から温かいご支援をいただいたことに、改めて御礼を申し上げます。



ストリートチルドレン向けの路上教育活動で使用している車両に救援物資を詰め込み、地域を回って配布した（2020 年 6 月）

「コロナ禍で困窮するフィリピンの路上の 子どもや家族への緊急支援」

期間：2020 年 4 月～2020 年 11 月
（募金活動は 9 月末に終了、救援活動は 11 月末まで実施）

対象地：フィリピン・マニラ首都圏マニラ市、バサイ市、
カロオカン市、パラニャーケ市、ケソン市

受益者：路上の子ども・若者の家族 1,472 世帯

パートナー団体：チャイルドホープ・フィリピン財団

活動報告③ 権利を奪われた貧困家庭の女性の社会主流化支援



女性農家の月収が約3割増、地域経済に大きな変化

ACC21 とスリランカの「ウバ・ウェラッサ女性団体」の共同事業が終了し、当初の目標が達成されました。仲買人などによる搾取や多重債務、家庭や地域での差別に長年苦しんできた女性たちが立ち上がり、いまや地域経済を牽引する存在になっています。

有機農産物のバイヤーと話す UWWO 代表のソーマさん（右）。コロナ禍で都市部での宅配需要に加え、周辺地域への販売も伸びている

活動の 実績

- 地場産業の構造が変わり、農業収入が 37.5% 増加。地域経済に大きな変化が起きました
- 夫婦や家族共同で意思決定を行うようになり、家庭内のジェンダー格差が是正されました

スリランカ東南部のウバ州モナラガラ県ウェラワヤ地区では、1日2ドル（約220円）以下で暮らし、多くの女性が家事、家族の世話、農作業など重労働を強いられています。また、夫からの暴力や一方的な別居・離婚により母子家庭となるケースも数多くあります。

2017年度に開始した本事業では、特産品ピーナッツの加工機械を導入して付加価値をつけ、マーケティング・センターを通じ農産物の75%を卸すシステムを確立し、仲買人抜きで適正な価格で取引できる市場の開拓をめざしました。

2020年度からは現地主導型に移行し、女性組織が習得した技術や知識を現場で実践しています。ACC21は現地専門家、公認会計士と連携し、UWWOと定期的に進捗状

況を共有し、課題の解決に取り組んでいます。また宅配業者と大口バイヤーへの販売に加え、中小規模の新たな取引先を開拓し、女性農家により多くの利益を還元できるようになりました。そのほか、農業関連の記録、組織運営、農業技術などの研修を通じた人材育成、モデル農園の設置、適正な融資の仲介など多角的に支援を行いました。その結果、収入が約30%増加しただけでなく、次のようなさまざまな変化が起きました。そして、780人のメンバーが大きな成果をあげていることを知った若年女性が、組織に参加するようになっていきます。

売上増

コロナ禍で国全体の経済活動が停滞したが、中小販売先の積極的な開拓や宅配需要の急増が功を奏し、ピーナッツ約210万円（約383万Rs）、有機農産物約149万円（約270万Rs）を売り上げた。

収入増

平均世帯月収が全体で29.5%うち農業収入は37.5%増。（2017年：約17,700円⇒2020年：約23,000円）支出割合にも変化がみられ、とくに教育費の割合が増加（4%増の12.8%）した。

参照レート：1スリランカ・ルピー（Rs）=0.55円

ジェンダー

夫婦（30.4%）や家族全員（46.1%）で意思決定するようになり、ジェンダー格差の是正という点でも大きく改善した。



有機農業について村の若者たちの意識啓発と組織化を始めている

本事業は、2017～2019年度の3年間に、（公財）生協総合研究所「アジア生協協力基金」、（公財）日本国際協力財団からの助成金ほか事業指定寄付金等で実施しました。2020年度よりフォローアップ活動を行っています。

活動報告④ 日韓みらい若者支援事業



オンラインで実施した第 1 回学習会の学生参加者たち（2020 年 12 月）

活動の 実績

- 日韓に関わる学生団体や市民に広く声をかけ、相互学習会を 3 回実施しました
- アンケート調査を行い、26 団体と参考資料をまとめた「ダイレクトリー」を発行しました

日韓関係団体の実態把握とアンケート調査

日韓に関わる約 110 団体の情報を収集した後、連絡先を把握できた団体に郵送、E メール、SNS、電話を通じてアンケートへの協力依頼と調査票を送付しました。

日韓関係の団体には ACC21 や本事業の認知度がまだ低いこと、そして新型コロナウイルスの影響で訪問による説明が難しかったこともあり、調査は難航しました。しかし約 3 か月かけて呼びかけた結果、28 団体から回答を得ました。

「日韓みらい若者支援事業」

期間：2019 年 11 月～2021 年 3 月
※以降継続予定

対象地：日本

受益者：若者、学生、一般市民

パートナー団体：（特活）Asia Commons 亜洲市民之道

「日韓関係ダイレクトリー」415 部を発行・普及

アンケートに回答した 28 団体のうち、ダイレクトリーへの掲載を希望した 26 団体を「日韓関係団体」として紹介しました。掲載した 26 団体の事業形態は、交流（人的交流／組織間交流）、イベントの開催、教育／ひとづくり／啓発、調査・研究が、事業分野では、文化・芸術・芸能、人権、教育が最も多いという結果になりました。また、とくに若い人たちに参考となる情報として、ダイレクトリーの後半に「参考資料」として、学生団体・サークル、文献リスト等を掲載しました。



PDF 版を下記 URL からご覧いただけます。

http://acc21.org/nikkan_kankei_directory_rev2106.pdf

学習会を3回開催

本事業の主な対象者である若者にアプローチするうえで、日韓関係で活動している学生団体の情報を収集し、16団体へメールやSNSを通じて連絡し、学習会への参加を呼びかけました。

● 第1回学習会

日韓に関わる学生団体の相互学習会①

日韓に関わる3つの学生団体等から計12人が参加し、各団体の学生たちが、資料を用いてそれぞれの活動概要を紹介しました。3団体はこれまで交流がなかったということで、活発に質疑応答が行われました。後半は、日韓に関わる学生団体間の今後の連携の可能性について意見交換を行い、今後への展望が図られました。

(2020年12月28日)

● 第2回学習会

日韓に関わる学生団体の相互学習会② “多様性の中の在日コリアン ～置き去りにされた在日の歴史～”

第1回学習会に参加した3つの学生団体所属の学生6人を含む計10人が参加しました。リソースパーソンの金村詩恩氏(エッセイスト)は、冒頭で自身が出演したテレビ番組を紹介し、日本社会における「多様性」について参加者が考える時間をつくりました。参加した大学生のひとり「番組での多様性に関する取り上げ方に違和感を感じる。人々のアイデンティティは(社会に対する)違和感や憤りにより形成されるのでは」と意見を述べました。参加者からの質問や意見を受けた後、金村氏は、「昨今、日本社会において多様性が語られているが、在日コリアンを含め在日外国人は昔から存在していて、新しい問題でない」と強調しました。後半の時間は、学生団体間の今後の連携の形について意見交換を行いました。

(2021年1月30日)

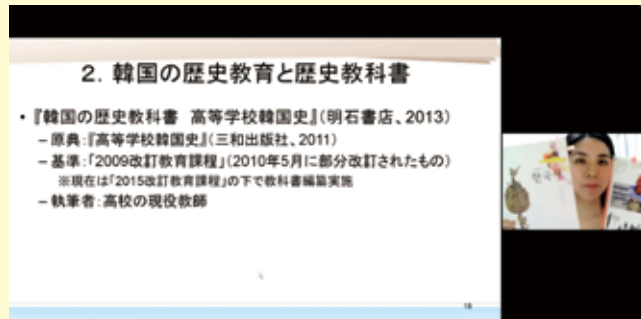
● 第3回学習会

“韓国の歴史教育と歴史教科書”

韓国の近現代史研究者である上山由里香氏を講師として学習会を開催し、日韓に関わる学生団体の学生、NGO職員など18人が参加しました。

上山氏は「歴史事実を知り、国・個人の間で歴史的事実に対する認識や解釈が異なるということをもっと理解すること、そして、異なる認識を持つことになった背景を理解することが大事だ」と話し、さまざまな教科書や資料を見せながら、一般的な歴史教育や韓国における歴史教育の特徴を解説しました。

(2021年3月27日)



オンラインで韓国の教科書を見せて話す上山氏(2021年3月)

第3回学習会講師をつとめた 上山由里香さんからのメッセージ

韓国のことを知り、日本との相違点や共通点を知る。自分が経験していない過去を想像し理解する。そのような作業の繰り返しは私たちには常に要求されています。日韓みらい若者支援事業は、そのような経験の蓄積を可能にしてくれる場所だと思います。

本事業の実施にあたり、2020年度は、一般財団法人MRAハウスからの助成金と、市民の皆さまからのご寄付をいただきました。御礼を申し上げます。

活動報告⑤ 企業との連携による途上国支援



パナソニック製の太陽光発電・蓄電システムで加工・製品化された4種のハーブティー(下段左)、ハチミツ(上段中央左)、モリンガのサプリ(上段中央右)

活動の
実績

- ・ ハーブティー 4 種、粉末モリンガ、森のハチミツの詰め合わせが完成しました
- ・ オンライン・ショッピングサイトでの販売を開始し、SNS から積極的に情報を発信しています

西カリマンタン産の製品がついに完成、
マーケティング活動へ

ACC21 がパナソニック (株) とインドネシアのディアン・デサ財団 (YDD) と連携して行う本事業では、インドネシア西カリマンタン州の無電化・半電化地域で、太陽光発電・蓄電システム「パワーサプライステーション」(パナソニック製)を活用し、地場産業になりうる製品の加工技術を開発しました。2020 年 2 月から始まった第 2 フェーズでは、開発した加工品の市場開拓と、無電化・半電化地域で使うことができる家庭用ソーラーパネルの開発を行っています。

本年度は新型コロナウイルスの感染拡大の影響で、日本から現場を訪問し、関係者会合を行うことができませんでしたが、関係者間で定期的にオンライン会議を行い、活動の進捗、製造・加工の進捗とマーケティング計画について話し合いました。

「西カリマンタン辺境地域での太陽光発電利用と
生計活動のモデルづくり」

期間：2017 年 12 月～2022 年 1 月
(2020 年 2 月から第 2 フェーズ)

対象地：インドネシア・西カリマンタン州
セミタウ副県 (12 村)、スハイド副県 (11 村)

受益者：住民約 5,000 世帯ほか

パートナー団体：パナソニック株式会社、ディアン・デサ財団 (Yayasan Dian Desa Baru、略称 YDD)

「Sweetest Wellness Package」をクリスマス
シーズンや製品の販促用に活用

2021 年 3 月、モリンガの葉を粉末状にした「BORNEO MORINGA」、モリンガとハーブ(ロセラ、ステビア、カモミール、菊)をブレンドした 4 種のハーブティー、ハチミツ「BORNEO FOREST HONEY」を竹製のカゴに詰め合わせた「Sweetest Wellness Package」(右写真)が完成しました。



企業の製品の販促や贈答用などへの活用も期待

パッケージ名には、健康増進

に役立つ製品の購入で社会に貢献できるという意味が込められています。また製品開発の経緯や現地の人々が生産・加工に携わる様子を写真入りで紹介したパンフレットを添え、持続可能なコミュニティ開発につながる「エシカルな消費活動」への参加を呼びかけています。

製品は、本事業で YDD が設立したマーケティング会社「Indonako Jaya Abadi」で注文できるほか、ジョグジャカルタ市内の健康食品店やオンライン・ショッピングサイト (Tokopedia、Shopee) で販売されています。Facebook、Instagram では現場での活動やストーリーが紹介されています。関連サイトは右の URL でご確認ください！

<https://linktr.ee/indonako>

活動報告⑥ ACT 推進／公益信託の事務局活動



日本を含む 5 か国を対象とした総額 1,900 万円規模
の助成活動を事務局として下支え
アジアの途上国における国際協力の豊富な経験を活かし、公益信託アジア・コ
ミュニティ・トラスト (ACT) をはじめ 3 つの公益信託の事務局として、助成先の
開拓や事業の評価にあたりました。

インド北西部・ラジャスタン州の先住民族地域で再活性化された「村落保健衛生栄養委員会」
の会合のようす。新型コロナウイルスの拡大で、保健や衛生の重要性が改めて認識されている

活動の 実績

- 3 つの公益信託を合わせて 14 件・1,091 万 3,000 円の助成活動を事務局として支えました
- 上記の助成活動を通じて、アジアの人々約 9,400 人が受益しました

アジア・コミュニティ・トラスト (ACT) の事務局

ACT は、アジアの途上国の人々の自立と発展を支援する日本で初めてのコミュニティ型公益信託です。1979 年の設立以来、15 か国で約 290 団体の現地 NGO が実施する 790 件あまりの事業に、総額 8 億 7,500 万円以上の支援をしてきました。ACC21 は 2005 年の設立以来 事務局を務め、質の高い助成活動を支えています。

2020 年度 助成件数 8 件 助成総額 572 万 5 千円 (5 か国)

世界的な新型コロナウイルス感染の拡大で、ACT の 2020 年度助成額は例年に比べ小規模となりました。また、日本の大学等教育機関でも対面や学外活動の自粛で、「アジア留学生インターン受入れ助成プログラム」の公募を見



2020 年に新たに始まった ACT 助成事業「ラジャスタン州先住民族コミュニティの保健エンパワメント」での住民会合のようす (インド北西部)

合わせました。また、継続助成を予定していたインドネシアでの大学奨学金助成事業では、大学の休校や対面授業の一時停止が続いたことから、年度内の助成を行いませんでした。

川上甚蔵記念国際文化教育振興基金の事務局活動

助成事業の報告書の取り付け、新規事業の公募、受託銀行との連絡・調整などを行いました。

2020 年度助成件数 1 件 助成総額 87 万円 (1 か国)

今井記念海外協力基金の事務局活動

助成団体との連絡調整・報告の取りまとめ、新規事業の募集・調査、受託銀行との連絡・調整などを行いました。

2020 年度助成件数 5 件 助成総額 431 万 8 千円 (5 か国)

※「公益信託今井記念海外協力基金」は、1977 年に設立された、日本で最初の公益信託。

助成先のアジア各国でコロナ禍による外出・移動制限などが断続的に続き、各公益信託とも制約が多い環境下ではありましたが、フィリピン、スリランカ、インド、カンボジア、ミャンマー、ネパール、バングラデシュ、日本で 14 事業が実施され、約 9,400 人に支援を届けました。

活動報告⑦ 日比 NGO 協働推進



アクセス、LOOB JAPAN、WE21 からの報告を聞くオンライン学習会参加者 (2020 年 10 月)

活動の 実績

- ・ コロナ禍で正・準会員が直面する財政上の課題などをテーマに学習会を 4 回開催しました
- ・ フィリピン支援を行う日本の NGO (JPN 正・準会員含む) によるコロナ禍の緊急支援活動を英語で発信し、フィリピン側関係団体に支援を呼びかけました

コロナの影響を受ける

現地の状況と支援活動に関する情報発信

2020 年 3 月以降、フィリピンでは新型コロナウイルス感染拡大の中でロックダウン (都市封鎖) の措置が取られ、人々、とくに貧困者の生活が深刻な状況に陥りました。そこで、JPN 会員団体が行っているフィリピン現地住民への食料品・生活必需品・衛生用品等の緊急配布の状況を JPN のウェブサイト等で紹介するとともに、募金への協力を呼びかけました (4 月)。そして、緊急支援を行った 4 団体から現地の状況と支援活動について 7 月に 2 回に分け一般公開の報告会を開き、参加した学生や大学教員たちとともに、日本の市民として何ができるかを考えました。

また、9 月には、JPN がウェブサイトで紹介している「フィリピンに関わる日本の NGO ダイレクトリー」に新規 13 団体を追加し、掲載団体の情報を更新しました (2021 年 3 月現在 52 団体掲載)。

JPN 正・準会員間の相互学習の場づくり

10 月には、正会員 3 団体が新型コロナ禍で受けた財政状況について報告し、その課題を克服するための新しい財源の開拓の努力について率直な意見交換をしました。スタディツアーやイベント等の自主事業収入に依存する団体は、大きな収入減に直面して組織運営が難しくなったこと、そうしたなかでイベントのオンライン化、クラウドファンディング、助成金の獲得、持続化給付金を受けることによって状況改善に取り組んだことが共有されました。

12 月の学習会では、正会員 ACTION の仲介でフィリピン社会福祉開発省 (DSWD) の次官を招き、同省が実施する代表的な 8 つの貧困層支援プログラムを学び、コロナ禍での貧困者支援における国を超えた官民連携について意見交換をし、その重要性の理解を深めました。



学習会で話すグッドマリン
DSWD 次官 (2020 年 12 月)

* 学習会①「フィリピンからの緊急報告：貧困家庭を襲ったコロナ禍、私たち日本の NGO が果たした役割 (1)」
(2020 年 7 月 2 日、参加者 19 人、講師：井上広之氏、内山順子氏)

* 学習会②「フィリピンからの緊急報告：貧困家庭を襲ったコロナ禍、私たち日本の NGO が果たした役割 (2)」(7 月 31 日、参加者 16 人、講師：横田宗氏、辻本紀子氏)

* 学習会③「コロナ禍におけるフィリピン支援のための資金調達 - NGO 間での経験共有と新財源の開拓方法について考える」(10 月 7 日、参加者 19 人、講師：森脇祐一氏、小林幸恵氏、小池絢子氏)

* 学習会④「コロナ禍におけるフィリピン政府の貧困層支援および NGO との協力」(12 月 17 日、参加者 20 人、講師：カミーロ G. グッドマリン氏、横田宗氏)

活動報告⑧ 広報啓発活動

ウェブサイトやSNS（Facebook、Twitter）、メルマガでの定期的な情報発信や年次報告書の発行を通じて、支援者や一般の方々への情報提供と活動への参加の呼びかけを行いました。

また、オンラインイベントの開催（1回）や外部セミナー等への講師派遣（2回）を行ったほか、学生の訪問（4組）を受け入れ、アジアの現状やACC21の活動について説明しました。

“マニラの路上の若者と語ろう！ ～コロナ禍のフィリピンからライブ配信～”



2020年10月23日、ACC21がもつアジア各国とのネットワークを活用し、オンラインで現地の人々とじかに話すことができるイベント企画『アジアの現場から“学ぶ旅”シリーズ』の第1弾として、初めてのオンラインイベント「マニラの路上の若者と語ろう！～コロナ禍のフィリピンからライブ配信～」を開催しました。

フィリピンからは、「路上で暮らす若者の自立支援プロジェクト」（詳細はp.6参照）の過去の研修生5人と、現地パートナー団体・チャイルドホープの事務局長らが参加しました。日本からは、学生や社会人など24人が参加されました。

当日はストリートチルドレンの置かれた状況やACC21とチャイルドホープの取り組みについてご説明したのち、日本とフィリピンの参加者同士で活発な意見交換が行われました。その一部をご紹介します。

※『アジアの現場から“学ぶ旅”シリーズ』では、今後も国やテーマを変えながら、継続的にオンラインイベントを行っていく計画です。企画が固まりましたらウェブサイト等でご案内しますので、ぜひ楽しみに！

～日本とフィリピンの若者たちの交流から～

Q. 路上で暮らしてきて一番大変だったことは？
（日本・N1さんからの質問）

A. 空腹のまま何日も過ごさなければいけないのが非常につかったです。台風など自然災害のときは特に大変です。自分が身を寄せる場所もなく、台風が過ぎ去るのをただ待つしかありませんでした。

また、子どもや若者を保護し、支援するのは自治体や社会開発福祉省の仕事ですが、『路上で暮らす子どもたちを保護する』と言いながら、半ば拘束するような形で捕らえ、シェルターとは名ばかりの、牢獄のような狭い空間に押し込まれるという状況があります。

（フィリピン・アーノルドさんからの回答）

Q. 将来成功するために大切なことは何だと思いますか？
（フィリピン・ロマーンさんからの質問）

A. 『自分にとっての幸せは何か』を明らかにすることだと思います。一般の価値観に振り回されることなく、自分の価値観を大切にすることです。例えば私は「大好きな仕事をする」「大好きな音楽を聴く」「大好きな人と暮らす」ことが幸せです。自分にとって大切なことを自覚し、それを大事にしながら生きていくことが大切だと思います。

（日本・N2さんからの回答）

Q. ロマーンさんにとって大切なことは何ですか？
（日本・N2さんからの質問）

A. 一つ目は、神様と共にいること。特に今のよう難しい時には非常に大事だと思います。二つ目は家族、三つ目は自分を愛するという事です。

（フィリピン・ロマーンさんからの回答）

《イベントの開催》

*アジアの現場から“学ぶ旅”シリーズ第1回「マニラの路上の若者と語ろう！～コロナ禍のフィリピンからライブ配信～」
（2020年10月23日、オンライン開催、日本側参加者24人、フィリピン側若者参加者5人）

《講師派遣等》

*「朝活！“SDGs×コロナ”～コロナの影響を受ける中、私たちはどのようにSDGsを達成していくのか～」【飢餓をゼロに】基調講演（伊藤、2020年4月28日、主催：高校生有志グループ「おうち時間で未来を考える会」）

*日比NGOネットワーク第2回学習会（辻本、2020年7月30日、「フィリピン緊急支援報告：貧困家庭を襲ったコロナ禍、ACC21が果たした役割」）

活動報告⑨ 制策・制度変革のための提言事業

右記のネットワーク・団体のメンバーとして、それぞれの政策提言に加わりました。

理事個人では、伊藤代表理事が、JANIC の顧問、(公財) 公益法人協会の評議員、「適正技術フォーラム」の理事として参加しました。

- ・(特活) 国際協力 NGO センター (JANIC) 正会員
- ・日比 NGO ネットワーク (JPN) 正会員
- ・グローバル連帯税フォーラム 正会員
- ・NGO- 労働組合国際協働フォーラム会員
(「広報タスクチーム」への参加)
- ・(特活) シーズ・市民活動を支える制度をつくる会 賛助会員

活動報告⑩ 調査研究事業

2020 年 1 月に調査研究事業「募金型公益信託の国際協力における役割と展望～誰もが参加できる国際協力のインフラづくりと提言～」を開始しました。

本事業では、ACT のような募金型公益信託の意義と役割を確認し、とくに国際協力・国際交流促進を目的とする公益信託が増加するための望ましい条件、環境、アプローチ（遺贈、相続財産の活用を含む）を検証します。

事業開始以来 2021 年 3 月末までに、次の活動を行いました。

1. 発行されている資料（年次報告など）と文献の研究
2. 「公益信託法見直しに関する要綱案」（2018 年 12 月）の分析
3. 「募金型」公益信託の調査と関係信託銀行へのアンケートおよびヒアリング調査対象先のリストアップ

これまでの活動を通じて、現存する公益信託 417 件（※）のうち、対象分野に関わらず「募金型」と思われる公益信託が 37 件あることを特定しました。今後、その 37 件を対象にアンケート調査を行うとともに、その中から経緯や背景のユニーク性を持ち、募金活動や情報発信を積極的に行っている公益信託を選び、ヒアリング調査を行います。

さらに、募金型公益信託の事例研究と特に国際協力・国際交流促進分野における実績・成果・課題の分析を行い、調査報告書にまとめ、発表していく予定です。

※ 2020 年 3 月末現在の公益信託の受託状況（信託協会調べ）

本事業は、(公財) トラスト未来フォーラムからの助成金によって実施しました。当初計画では 2020 年度内に完了する予定でしたが、新型コロナウイルス感染拡大の影響で対面でのインタビュー調査等ができなかったことから、同財団の許可を受け、2021 年度まで活動を延長することとなりました。

活動報告⑪ その他の活動

すっきり寄付（物品の寄贈による寄付）

資金の開拓と、潜在的な協力者・支援者の拡大を目的として、すっきり寄付（物品の寄贈による寄付）を募集しました。のべ 72 人の方にご協力いただき、6 万 2,238 円の収入となりました。ご協力いただいた皆さまに、この場を借りて御礼を申し上げます。

未使用切手受入れ額	8,334 円
書損じ・未使用はがき	13,179 円
外貨（保有高の円換算額）	9,395 円
株主優待券	480 円
その他換金額の合計（※）	30,850 円

※換金した物品の内訳：

未使用海外切手（約 300g）、使用済切手（約 4.6kg）、
外国通貨（コイン・紙幣 約 4kg）、プリペイドカード等（使用済：約 15kg、未使用：37 枚）

遺贈・相続財産によるご寄付のパフレット発行

2020 年 8 月に、冊子『「遺贈・相続財産によるご寄付」のご案内』を発行し、支援者・関係者の皆さまに配布しました。PDF 版は、ウェブサイトからダウンロードいただけます。ぜひご覧いただき、ご検討ください。

http://acc21.org/ACC21_legacy.pdf



「アジアの『夢』みらい委員会」の設置

寄付者の方の思い、夢、志の実現に協力するとともに、ACC21 の「アジア若者みらい基金」や他事業の推進のために寄付金を開拓・拡充することを目的に、委員会を設置しました。メンバーは次の通りです。

伊藤代表理事／鈴木副代表理事／高見正会員／
太田アドバイザー・正会員

5. 2020 年度の会計報告

①活動計算書

科 目	金額	小計・合計
I. 一般正味財産増減の部		
【A】 経常収益		
1. 受取会費		523,000
正会員 受取会費	168,000	
賛助会員 受取会費	355,000	
2. 受取寄付金		9,638,173
受取寄付金	9,439,651	
受取寄付金振替額 (日韓みらい若者支援事業)	198,522	
3. 受取助成金等		2,450,000
受取助成金	2,450,000	
4. 事業収益		10,481,722
受託事業収益	10,469,722	
自主事業収益	12,000	
5. 負担金収益		2,694,120
共同事業負担金収益	2,694,120	
6. その他の収益		25,042
受取利息	42	
雑収入	25,000	
経常収益計		25,812,057
【B】 経常費用		
1. 事業費		22,141,998
人件費	12,502,944	
その他経費	9,639,054	
2. 管理費		3,101,634
人件費	1,033,644	
その他経費	2,067,990	
経常費用計		25,243,632
当期経常増減額【A】－【B】…①		568,425
【C】 経常外収益		0
【D】 経常外費用		0
当期経常外増減額【C】－【D】…②		0
税引前当期一般正味財産増減額 ①＋②…③		568,425
法人税、住民税、事業税…④	70,000	
前期繰越正味財産額…⑤	2,888,877	
次期繰越一般正味財産額 ③－④＋⑤		3,387,302
II. 指定正味財産増減の部		
受取寄付金 …⑥		0
「アジア若者みらい基金」 (日韓みらい若者支援事業指定)	0	
一般正味財産への振替額…⑦		-198,522
当期指定正味財産増減額 ⑥－⑦		-198,522
前期繰越指定正味財産額		198,522
次期繰越指定正味財産額		0
次期繰越正味財産額		3,387,302

②貸借対照表

科 目	金額	小計・合計
【A】 資産の部		
1. 流動資産		5,728,951
現金預金	5,606,450	
未収金	41,525	
棚卸資産	80,976	
2. 固定資産		32,184
有形固定資産	32,184	
無形固定資産	0	
投資その他の資産	0	
資産合計		5,761,135
【B】 負債の部		
1. 流動負債		2,341,649
未払金	897,288	
前受金	712,000	
預り金	109,361	
未払法人税等	70,000	
未払消費税	553,000	
2. 固定負債		32,184
リース負債	32,184	
負債合計		2,373,833
【C】 正味財産の部		
1. 指定正味財産		0
アジア若者みらい基金	198,522	
当期指定正味財産増減額	-198,522	
2. 一般正味財産		3,387,302
前期繰越一般正味財産額	2,888,877	
当期一般正味財産増減額	498,425	
正味財産合計		3,387,302
【D】 負債及び正味財産合計【B】＋【C】		5,761,135

より詳しい決算報告書は、ウェブサイトから PDF 版をダウンロードいただけます。

http://acc21.org/FinancialReport2020_ACC21.pdf



6. 事務局から

2020 年度の活動を支えてくださり、ありがとうございました。
これからもよろしくお願いいたします。

より詳しい事業報告は
ウェブサイトでご覧ください

http://acc21.org/AnnualReport2020_ACC21.pdf



編集後記



高齢者となっている私の活動を
支えている言葉は「感謝」。本誌
が ACC21 の 2020 年度の活動報
告書として読者の皆さんにお届
けできるのは、スタッフ全員が
力を合わせた結果です。そして
私たちが国際協力活動を継続で
きるのはサポーターの方々がおられるからです。

私たちの活動を支える背骨は、他者への思い。それも国境を越え、民族や文化の違いを超え、不遇な状態にある人々への思い。コロナ禍はそうした人々を一層の苦境に追い込んでいます。個人の経済的リターンが限られた職場条件下でも、スタッフは日本を取り巻くアジアの国々の社会的な不遇にある人々の生活権の確立と個々人の幸せを願い、日本の支援者の方々との絆を作る努力を続けています。感謝。(伊藤／代表理事)



“現場”で見て、聴いて、話して、
即座に発信しアクションを起こ
すことを強みとしてきた NGO
にとって、身動きがとれないこ
とは活動の根本にかかわります。
暗い話になってしまいましたが、
2020 年には 9,500 万人が (IMF)、
30 年までに 2.07 億人が、長期化すれば 10 億人が極度の貧困
に陥る (UNDP) という見通しがあります。それを裏付けるよ
うに、路上生活者や日雇い労働者などがさらに追い詰められて
いる状況が ACT 現地パートナーから報告されています。こう
したなかフィリピン緊急支援をはじめ多くの方々にご協力いた
だきました。お心が何よりもうれしいです。こういう時こそ、
想像力と共感力を総動員し、できることをやろう、という気持
ちです。(鈴木／副代表理事、事務局長)



2020 年度はコロナ禍で対面のイ
ベントや渡航などできなかった
ことも多くありましたが、オン
ラインでの現地パートナーとの
定例会合やイベントなどを始め
るいい機会にもなりました。
フィリピンでは非常に厳しい外

出・移動制限が実施され、支援してきた若者たちの収入が途絶
えるなど心配が多い 1 年でしたが、そのような中でも新しいビ
ジネスを始めたり、プロジェクトに参加して技術を身につけよ
うと努力する、若者たちの前向きな姿に勇気づけられました。
少しでも彼らの将来に役立つ支援ができるよう引き続き頑張り
ます。(辻本／ストリートチルドレン事業・広報担当)



コロナの影響により顔を合わせ
る機会が減る中、たとえ文面の
やりとりだけであっても信頼を
得られるよう意識して取り組
みました。2020 年になって始めた
体験農園。農業初心者ながら、
プロの指導を受け、20 種類の野
菜を育てました。地盤に根が強く深く根付くこと、必要な時期
に栄養が与えられること…。野菜栽培のどのプロセスをとって
も人間に置き換えられます。私も基礎的な業務を怠らず、新し
い知識や情報を取り入れ、事業の先にいる人びとと社会全体に
活力を与えられるよう頑張ります！(堀部／日韓みらい若者支
援事業・ACT フィリピン事業・JPN 担当)



認定更新申請のために、5 年間
分の寄付者リストを作成しまし
た。ACC21 の活動は、賛助会員・
寄付者の皆様によって成り立っ
ている。実感しました。感謝申
し上げます。

コロナ禍にありますが、禍だけ
ではなく、良いこともあります。Zoom や Skype によって、世
界が近くなりました。オンラインイベントでは、現地と結んで
交流し、学習会にも海外から参加していただきました。文字や
写真だけではなく、Face to Face です。皆さんどうぞ、報告会
や学習会に参加してください。(藤岡／経理担当)



私は 20 年 10 月からボランティ
ア、21 年 7 月から非常勤スタッ
フになりました。コロナ禍で現
地調査ができなくなり、「本の
向こうの世界にもっと意味のある
変化を起こしたい」と思う
ようになりました。幸運にも、
ACC21 を通じて、概念や理論を超えて現実の世界を学び、変
化に関わることができました。とくにフィリピンの自立支援プ
ロジェクトの受益者とオンラインで話したとき、感銘を受けま
した。貧しい人たちの現実を深く知る、視野の広い研究者にな
りたいと思っています。(エース／国際・調査担当)

ACC21とは？

アジア・コミュニティ・センター 21 (ACC21) は、アジア 12 か国の 100 以上の現地 NGO とのネットワークを基盤にして、アジアの貧困削減と平和な社会づくりにむけて活動する国際協力 NGO です。

Vision アジアの人々が共に生き、支え合う、世界に開かれた、公正で平和な社会

Mission 4つの“流れ”とひとづくりを推進し、市民・民衆・NGOなどを基礎とした市民社会の協働ネットワークを構築していきます。



「資金」の流れ



「知識・情報」の流れ



「ひと」の流れ

ひとづくり



「政策・制度変革」の流れ

Board Members

- 代表理事：伊藤 道雄（公財）公益法人協会 評議員
副代表理事：鈴木 真里 ACC21 事務局長
理事：有川 凜（一財）RINDA foundation JAPAN 代表理事
小松 諄悦（特活）アジア車いす交流センター 元理事
清水 恭子（有）CD-BOX 取締役
長畑 誠（一社）あいあいネット代表理事・明治大学専門職大学院ガバナンス研究科 教授
浜田 忠久（特活）市民コンピュータコミュニケーション研究会 代表理事
湯本 浩之 宇都宮大学 留学生・国際交流センター 教授
監事：秋尾 晃正（公財）民際センター 理事長
鈴木 英子 鈴木英子税理士事務所 所長
アドバイザー：太田 達男（公財）公益法人協会 会長

News

● 2021 年 8 月 2 日に、東京都より「認定特定非営利活動法人」（認定 NPO 法人）の認定更新通知書が交付されました（有効期間満了日は 2026 年 3 月 1 日）。今後も、法令を遵守し、適切に組織を運営し、アジアの公正で平和な社会の実現に向け、活動に取り組んでまいります。

● 2021 年夏より、すっきり寄付（物品の寄贈による寄付）の寄贈物品の取り扱いを一部変更しました。
《日本の未使用切手／書き損じ・未使用はがき／未使用のプリペイドカード（有効期限内）／商品券（金額記載・有効期限内）／一部の外国紙幣》は、額面分のご寄付としてお受けすることができるようになりました（税制上の優遇措置の対象となります）。詳しい条件はウェブサイトでお確かめください。<http://acc21.org/donation/sukkifu.html>

ご寄付のお願い

ACC21 の活動は、皆さまからのご寄付や会費によって支えられています。
ACC21 へのご寄付・賛助会費は、税制上の優遇措置の対象となります。

【ご寄付・会費のお振込み先】

《ゆうちょ銀行》

口座番号：00160-6-718320

特非) アジア・コミュニティ・センター 21

《みずほ銀行 駒込支店 (559)》

普通口座：1120451

特非) アジア・コミュニティ・センター 21

※銀行振込の場合は、ご寄付者さまのお名前とご住所をメール (kifu@acc21.org) またはお電話 (03-3945-2615) でお知らせください。



クレジット決済をご希望の方はこちら

<http://acc21.org/donation/kifu.html>



会員を募集しています

ACC21 の活動を支える会員を募集しています。ACC21 と共に歩みませんか。

【会員の種類と年会費】

正会員 : 12,000 円 / 年

賛助会員 (個人) : 5,000 円 / 年・口

賛助会員 (団体) : 50,000 円 / 年・口

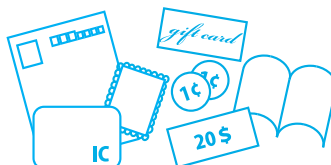
(会費はクレジット決済でもご納入いただけます)

【会員は次の機会を得ることができます】

- ・ACC21 が主催する各種催しへの参加 (ただし割引はありません)
- ・ACC21 がかわるアジアの事業現場からの情報の入手
- ・ACC21 が実施する国際協力および国際協力全般に関する情報と、参加についての助言

すっきり寄付

集めて、送る—そのご協力が
アジアの人々を助ける力になります



寄付をきっかけに
物を減らして
気分もすっきり!

おうちに眠るものを、お金に換えて困難な状況にあるアジアの子どもや女性たちのために活用させていただきます。

●集めているもの

1. はがき (書き損じ・未使用)
2. 未使用切手 (日本、外国)
3. 使用済み切手 (日本、外国)
4. 外国通貨 (硬貨、紙幣)
5. プリペイドカード (使用済・未使用)
6. トレーディングカード (使用済・未使用)
7. 商品券、株主優待券 (未使用)

●送り先

ACC21 事務所 (下記住所)
すっきり寄付係まで!



ご送付前に、申込用紙またはウェブサイトに記載の注意事項をお読みください。

<http://acc21.org/donation/sukkifu.html>



※一部の物品は、額面分の寄付として受け付けることができました。詳しくはウェブサイトをご覧ください。



認定 NPO 法人

アジア・コミュニティ・センター 21 (ACC21)

〒113-8642 東京都文京区本駒込 2-12-13 アジア文化会館 1F
Tel : 03-3945-2615 Fax : 03-3945-2692 Email : info@acc21.org

発行日：2021 年 10 月 31 日 編集・発行：ACC21

URL : <http://acc21.org>

<https://www.facebook.com/acc21.org>

Twitter: @ACC21_NGO